

Okakura Kakuzo

因君天心全集
3

平凡社

岡倉天心全集（全八卷）

第三卷 定価 五四〇〇円

一九七九年一〇月一五日 初版第一刷発行

著者 岡倉天心

発行者 下中邦彦

発行所 株式会社 平凡社

東京都千代田区四番町四番地
郵便番号一〇二
電話〇三二六五〇四五
振替東京八一九六三九

印刷 東洋印刷株式会社
製本 株式会社石津製本所

凡 例

一、本全集は、岡倉天心の著書、著述、講演、談話、未発表草稿、日記、ノート、書簡などを、現在可能な限り蒐集し、これに関連資料を付して、集大成したものである。

二、著書、雑誌、新聞に発表された論稿は、原則として初出を底本とし、自筆原稿あるいは異本との異同を校訂した。

三、英文の著書、著述、未発表草稿は、厳密な校訂をほどこした後、すべて新訳して収録した。

四、自筆の日記、旅行日誌、古社寺調査ノートなどは、できるだけ原型を損わぬよう翻刻した。

五、収録文は底本を忠実に翻刻することを旨としたが、読解の便宜をはかるため、次の方針で整理した。

1 原題のない草稿や新聞掲載の講演速記などには、編者による標題を掲げた。

2 漢字は新字体を使用し、俗字・略字は通行の字体に改めた。

3 あきらかな誤字、誤植は訂正し、誤使用あるいは正誤を判断しかねる用語、用法には、その初出に「ママ」を付した。また、現在通行の用法では誤字、誤記に類する用法も、文意が通ずるかぎりは敢えて改めなかつた。

4 仮名遣い、平仮名・片仮名の別、および濁音表記は底本通りとし、変体仮名(例 ま↓れ)、合字(例 卍↓トモ)などは通行の文字に改めた。

- 5 底本が自筆原稿の場合、文意の通じにくい字句、固有名詞の誤記などは「」内に注記した。(例 渴ヲ医スル「ニ」足ル、樊^(魯)檜)
- 6 句読点、改行、字下りなどの扱いは、通行の方式にしたがって適宜手を加えたが、底本が自筆原稿、書簡などで句読点のない場合は、おおむね句点にあたる箇所および読み誤りやすい箇所を一字あけにした。
- 7 みせ消ちは原則として翻刻せず、内容理解に必要と思われる場合のみへゝ内に翻刻した。
- 8 破損、その他判読不能の箇所は、□□、□□、□□のように示した。
- 9 必要に応じてルビを付し、現代仮名遣いをもって表記した。底本が総ルビの場合は、特殊な読み方などを残し、他は省いた。
- 10 天心作の漢詩は第七巻で一括して注釈を付すため、本文中では白文のままとした。

本巻(第三巻)は三部からなり、I部には雑誌、新聞などに邦文で発表された評論、序文などをすべて収録した。II部には雑誌、新聞に掲載された講演筆記、談話筆記を収録した。III部には意見書、私見、組織規定を収録した。配列は各部分ごとに年代順とした。

なお、筆名あるいは無署名の資料で、天心の著述と判断されるものは、その旨、解題に記して収録した。

目

次

凡例

I

書ハ美術ナラスノ論ヲ読ム	5
美術ノ奨励ヲ論ス	13
絵画配色ノ原理講究セサルヘカラス	17
日本美術ノ滅亡坐シテ俟ツヘケンヤ	21
東洋絵画共進会批評	23
美術展覧会批評	29
『国華』発刊ノ辞	42
円山応挙	49
帝国議會に蟠まる一種の勢力	59
狩野芳崖	64
支那古代ノ美術	75
美術世界ノ発行ニ就テ	81
第三回内国勸業博覧会審査報告	82
二種類の集會	94

支那南北ノ區別	97
『錦巷雜綴』發行ノ主旨	102
橋本雅邦	104
福富孝季君を憶ふ	110
卒業生諸君に告ぐ	113
美術教育の施設に就きて	115
社会と作家	130
明治三十年の美術界	133
日本美術史論	140
第十回絵画共進会・日本美術院展覧会出品概評	146
『仁山智水帖』序	169
II	
鑑画会に於て	173
博物館に就て	179
シカゴ博覧会出品画に望む	187

支那の美術	191
棧雲一片	216
パリ博覧会出品について	221
文学局外観	224
日本美術院仙台展にて	227
九州博物館の必要	229
福岡での招待会席上にて	234
日本美術院福岡展にて	237
日本美術院新潟展にて	242
雅邦先生招待会の席上にて	250
日本美術院和歌山展にて	256
印度旅行談	260
印度美術談	262
史学会席上の印度研究談	265
藝術界の過去現在	271
美術家の覚悟	277

三時代古画の評釈	286
支那美術について	289
玉成会発会席上に於て	291
公設美術展覧会に対す希望	299
病中の雅邦翁	303
美術上の所感	305
美術上の急務	313
奈良美術研究の必要	320
日本趣味と外国人	323
日本美術界の恩人・故フエノロサ君	326
噫菱田春草君	330
米國と東洋美術	334
III	
文部省ニ美術局ヲ設ケラレ度意見	341
美術品保存ニ付意見	344

京都博物館組織	366
美術部主管物品交付之件	368
説明東京美術学校	369
二十八年年度本校経費之儀ニ付上申	380
美術教育施設ニ付意見	383
支那美術品蒐集ニ係ル意見	409
美術会議設置ニ付意見	413
宗教行政ニ関スル私見(草稿)	419
宗教行政ニ関スル私見	428
美術教育施設ニ付意見(明治三十年)	432
日本美術院創設の趣旨	441
改正日本美術院規程	450
解説	458
河北倫明	
解題	468
(付録Ⅰ) 運慶作金剛力士像	491
(付録Ⅱ) 支那の美術	498

岡倉天心全集 第三卷

I

•

書ハ美術ナラスノ論ヲ讀ム

我東洋字藝雜誌ヲ閱スルニ、小山正太郎氏ハ書ハ、美術ナラスノ論ヲ載ス。抑モ美術ノ真理ヲ考究スル者、古來歐洲ニ於テモ甚タ稀ナリトス。殊ニ東洋ニ在テハ古詩人モ「想到空靈筆有神。每從遊戲得天真。笑他正色談風雅。戎服朝冠對美人。」ト謂ヘル如ク、美術ハ理ヲ以テ推ス可カラスト想像シ、唯慣習又ハ憶測ヲ以テ之ヲ是非スルノ弊ナキニ非ス。今小山氏独リ慣習ヲ破リ憶測ヲ離レ書ハ美術ナラスト断言シ、大ニ世上ノ妄想ヲ打破セリト雖トモ、惜ヒ夫其論拠トスル所鞏固ナラス。此ヲ以テ書ノ美術ニ非サル所以ヲ証明スル能ハサルナリ。是余ノ最モ慨歎ニ堪ヘスンテ、聊イサカ茲ニ論弁スルコトアル所以ナリ。

小山氏ノ論、第八第九第十ノ三号ニ跨ルト雖トモ、今其論旨ヲ約言セハ左ノ四点ニ歸セン。

- (一) 世上書ヲ美術トスルノ諸説ハ信スヘカラス。
- (二) 書ハ美術トナスヘキ部分ヲ有セス。
- (三) 書ハ美術ノ作用ヲナサス。
- (四) 書ハ美術トシテ勸奨スヘカラス。

請フ、逐次其論点ノ当否ヲ論セン。小山氏カ先ノ駁撃ノ勇ヲ試ミタルハ即チ、世上一般ニ書ヲ美術トスルノ諸説ナリ。余ハ勿論世上ノ妄説ノ為メニ答弁スルノ責ニ任セスト雖トモ、駁議中往々當ヲ得サル所アルニ似タリ。

請フ、一二ノ例ヲ挙ケン。

小山氏本邦ノ書ハ歐洲蟹行文ト異ナリ美術ト云フヘシノ説ヲ駁シテ曰ク、「書ハ固ト言語ノ符号ニシテ、他ニ作
用アルニ非ス。(略)其主旨タル唯タ意ヲ通スルニ在ルノミ。書ニシテ誤リ無ク意ヲ通スルヲ得ハ、則チ書ノ職分
畢^オレリ。又他ヲ問フヲ要セサルナリ。然ハ則チ蟹行ト云ヒ、鳥跡ト云フトモ、其主旨職分等ニ至テハ、毫末モ異
ナルコトナキ也」ト。其論ノ帰着スル所ハ西洋ニ於テ書ヲ美術トセサルニ、我書西洋ノ書ニ異ル性質ナクシテ特
別ニ美術トスルノ理ナシト云フニ過キス。然レハ我書西洋ノ書ニ異ナル性質アル所以ヲ論定セハ、他ノ論点隨テ
明白ナラン。夫レ美術ノ名ハ實用技術 (useful arts) ニ對シテ下シタルモノナレハ、其主旨トスル所大ニ異ルト雖
トモ、實用技術ノ中ニテ美術ノ域ニ入ルモノアリ。例ヘハ彼ノ建築術 (architecture) ノ如キ始メヨリシテ美術ト
スヘキニ非ス。彼ノ野蛮人ノ建ツル小屋ト雖トモ風雨寒暑ヲ防クニ足ラハ素ヨリ其職分ヲ尽セリト雖トモ、未タ
美術ノ区域ニ入ルヘカラス。世人ノ美術ヲ以テ許セル建築術ハ内質ノ堅固ト共ニ外貌ノ美麗ヲ索^{モト}ムル術ナリ。風
雨寒暑ヲ防クノ外更ニ他ニ索ムル所アルナリ。若シ家ヲ建ツルノ術ヲ以テ悉皆美術ナリトセハ、誰カ之ヲ正論ナ
リト謂ハン。書ハ固ト言語ノ符号ナリ。書ヲ作ルハ實用技術ナリ。苟^{イフシク}モ字体ヲ成セハ其職分畢レリ。猶小屋ニ
シテ風雨寒暑ヲ防クカ如シ。然レトモ我書ニ索ムル所ハ音^{オン}ニ字体ヲ成スニ止マラサルナリ。我書ハ勉メテ前後ノ
体勢ヲ考ヘ、各自ノ結構ヲ鑑ミ、練磨考究シテ美術ノ域ニ達スルモノニシテ、歐洲人ノ唯タ意ヲ通スルヲ以テ足レ
リトスルニ比スレハ大ニ異ナル所アリ。按スルニ中古歐洲ニ於テ學事專^{モツ}ラ僧侶ニ歸シ、平人ニシテ書ヲ讀ミ字ヲ
作ルコトハ却テ恥トセリ。故ニ英國ノ貴族中自カラマダナカルタニ記名シ得ル者甚タ稀ナリシト云フ。爾來文運
ハ日ヲ追テ進ムト雖トモ能書ヲ貴フノ風ナク、隨テ書法ヲ考究スル者断テアラサルナリ。支那ハ之ニ反シ書ヲ六
藝ノ上ニ置キ盛ニ之ヲ勸奨ス。朱新仲カ猶覺寮雜記ニモ「唐百官志。有書學一途。其銓人亦以身言書判。故唐人